

函 教 政

令和6年(2024年)3月25日

総務常任委員会委員 各位

教育委員会学校教育部長

参考資料の配付について

このことについて、別添のとおり下記に係る資料を配付いたします。

記

○配付資料

学校部活動の地域移行等に関するアンケート調査結果（概要版）

○本編URL

<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2024031400101/>

（学校教育部教育政策推進室教育政策課）

学校部活動の地域移行等に関するアンケート調査結果（概要版）

〈調査の概要〉

1 調査の目的

学校部活動の地域移行等に向けた取組を検討する基礎資料とするため、市立小中学校の児童生徒やその保護者、教職員、部活動地域支援者、運動・スポーツおよび文化芸術関係団体に対し、アンケート調査を実施する。

2 調査期間

令和5年（2023年）12月8日（金）～12月26日（火）

3 調査対象および調査方法

対 象	調 査 方 法	対象者数
小学校4～6年生	Google フォームで回答	4, 647
中学校1～2年生	学習用端末（Chromebook）を活用	3, 059
上記小学生保護者	Google フォームで回答	4, 647
上記中学生保護者	回答用QRコード入りチラシを配付	3, 059
小学校教職員	Google フォームで回答	742
中学校教職員	回答用URLを配付、各自回答	411
部活動地域支援者	調査票による配付・回収	28
運動・スポーツ、 文化芸術関係団体	調査票による配付・回収	92

4 調査回答数（回答率）

対 象	回 答 者 数（回答率）
小学校4～6年生	3, 592（77.3%）
中学校1～2年生	2, 465（80.6%）
上記小学生保護者	1, 338（28.8%）
上記中学生保護者	1, 146（37.5%）
小学校教職員	531（71.6%）
中学校教職員	288（70.1%）
部活動地域支援者	22（78.6%）
運動・スポーツ、 文化芸術関係団体	53（57.6%）

※部活動地域支援者とは、中学校の各種部活動で、顧問教員を補佐し、専門的な技術指導を行う外部人材のことです。

5 集計方法

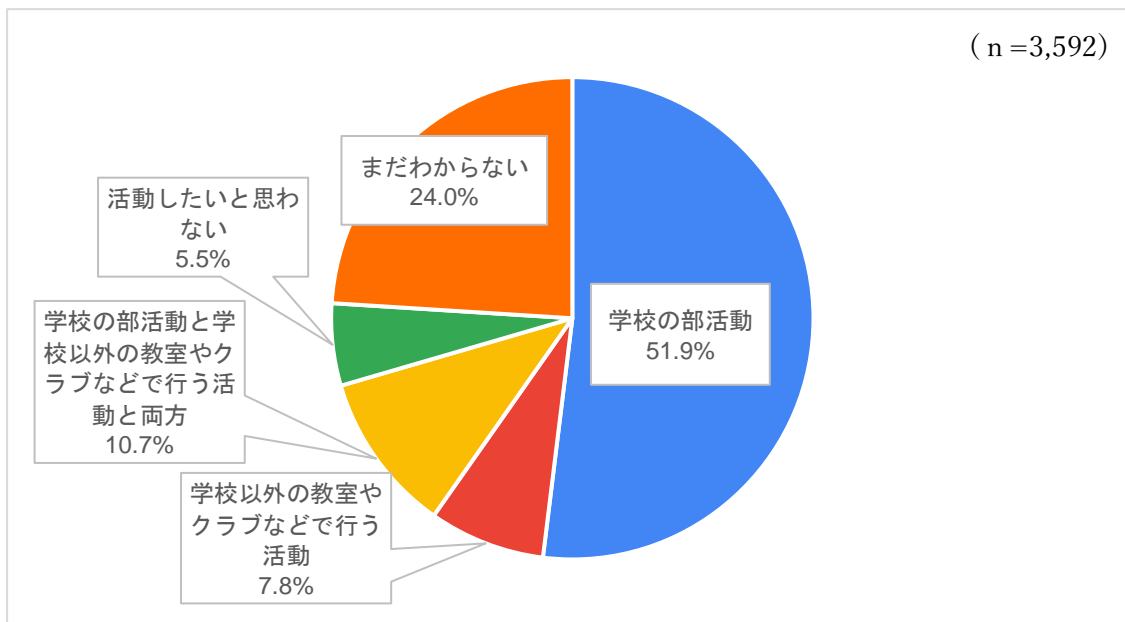
- ・結果数値は小数第2位を四捨五入していますので、合計で100%とならない箇所があります。
- ・複数回答の項目における割合（%）については、回答者数を分母として集計しています。
- ・グラフ横のnの値は、回答者数を表しています。

【小学生】

1. 中学生になったらやってみたい活動はなにか。

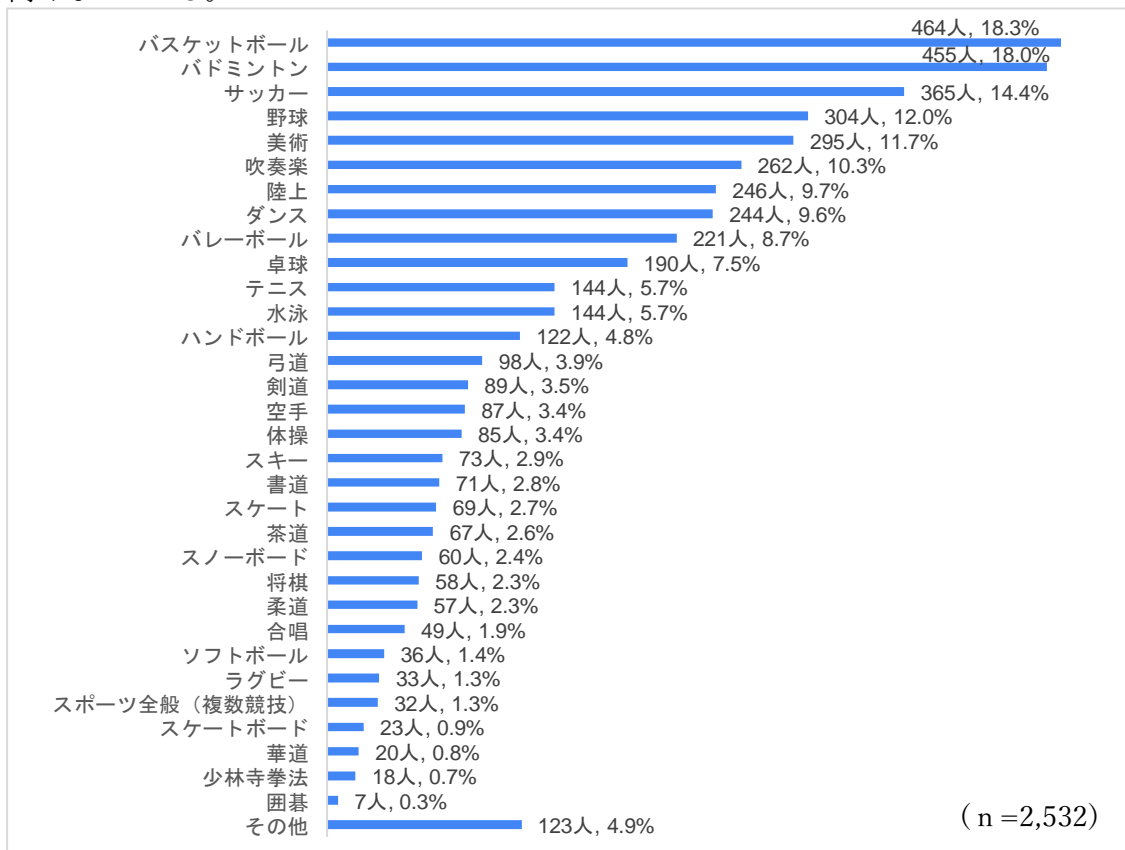
○種別

・「学校の部活動」が51.9%で最も高くなっている。



○種目（2つまで回答可）

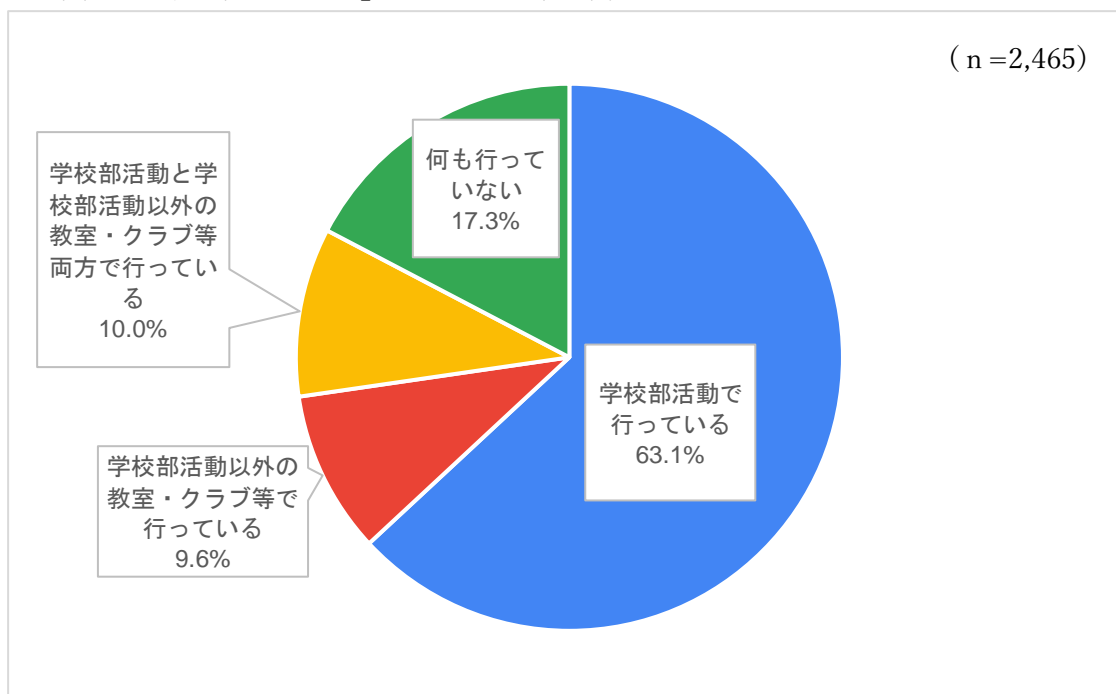
・バスケットボール、バドミントン、サッカー、野球、美術、吹奏楽、陸上、ダンスの順に高くなっている。



【中学生】

2. 現在の活動状況

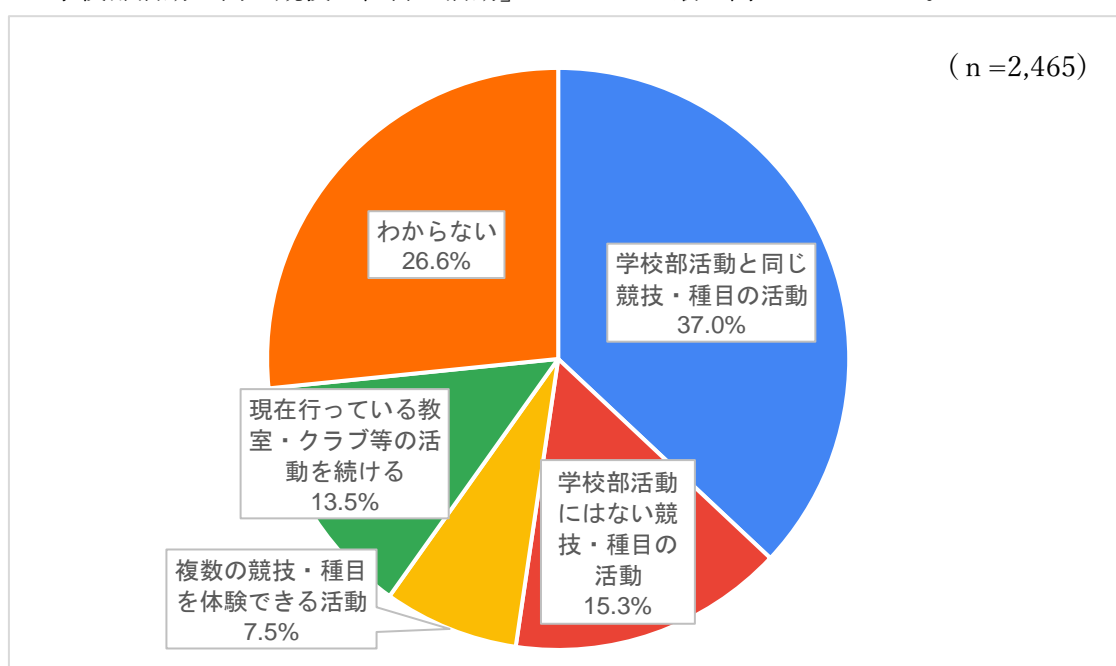
・「学校部活動で行っている」が63.1%と最も高くなっている。



3. 休日の学校部活動が地域クラブ活動に移行した場合

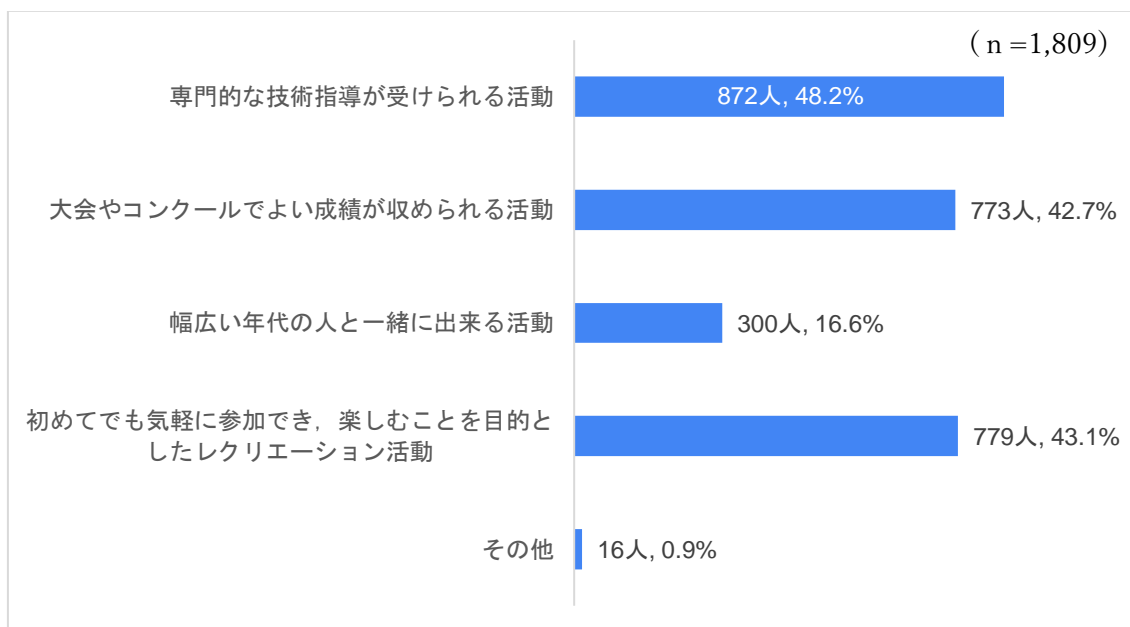
(1) どんな活動をやってみたいか。

・「学校部活動と同じ競技・種目の活動」が37.0%と最も高くなっている。



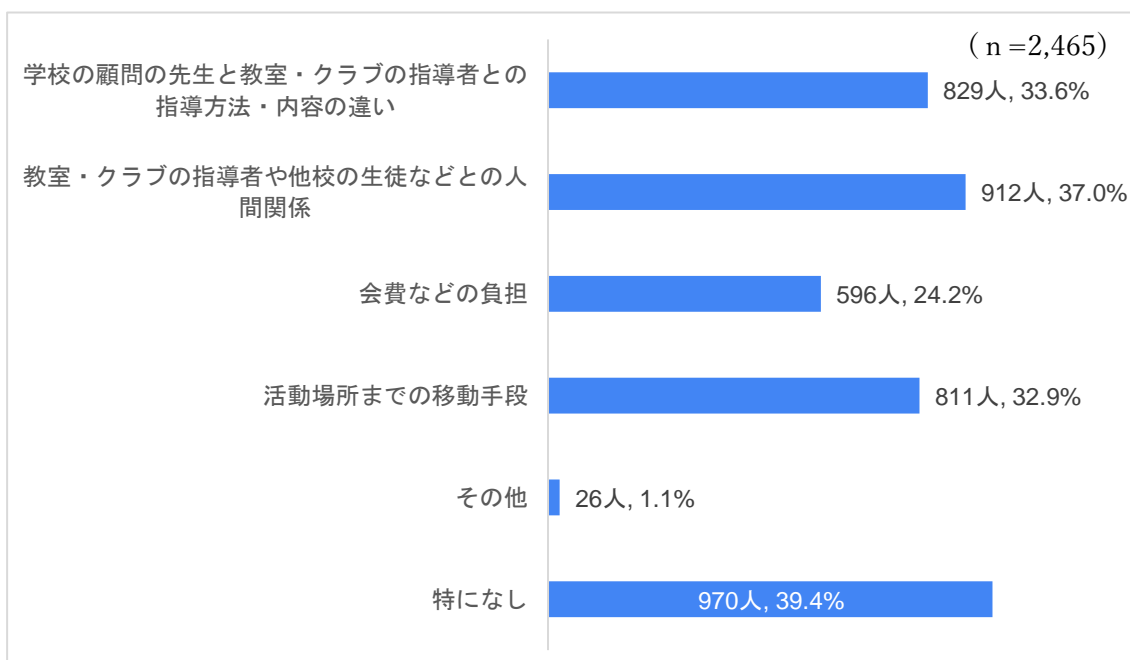
(2) どんな活動にしたいか。(複数回答可)

・「専門的な技術指導が受けられる活動」が48.2%、「初めてでも気軽に参加でき、楽しむことを目的としたレクリエーション活動」が43.1%、「大会やコンクールでよい成績が収められる活動」が42.7%となっている。



(3) 心配なことはありますか。(複数回答可)

・「特になし」が39.4%、「教室・クラブの指導者や他校の生徒などとの人間関係」が37.0%、「学校の顧問の先生と教室・クラブの指導者との指導方法・内容の違い」が33.6%、「活動場所までの移動手段」32.9%となっている。

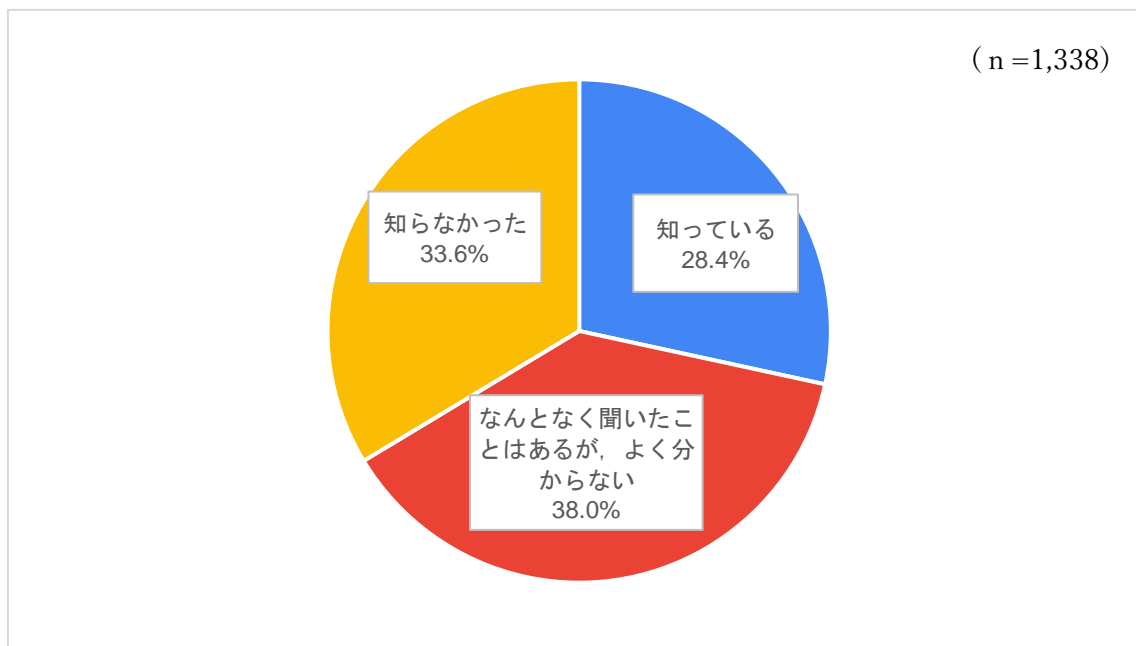


【保護者】

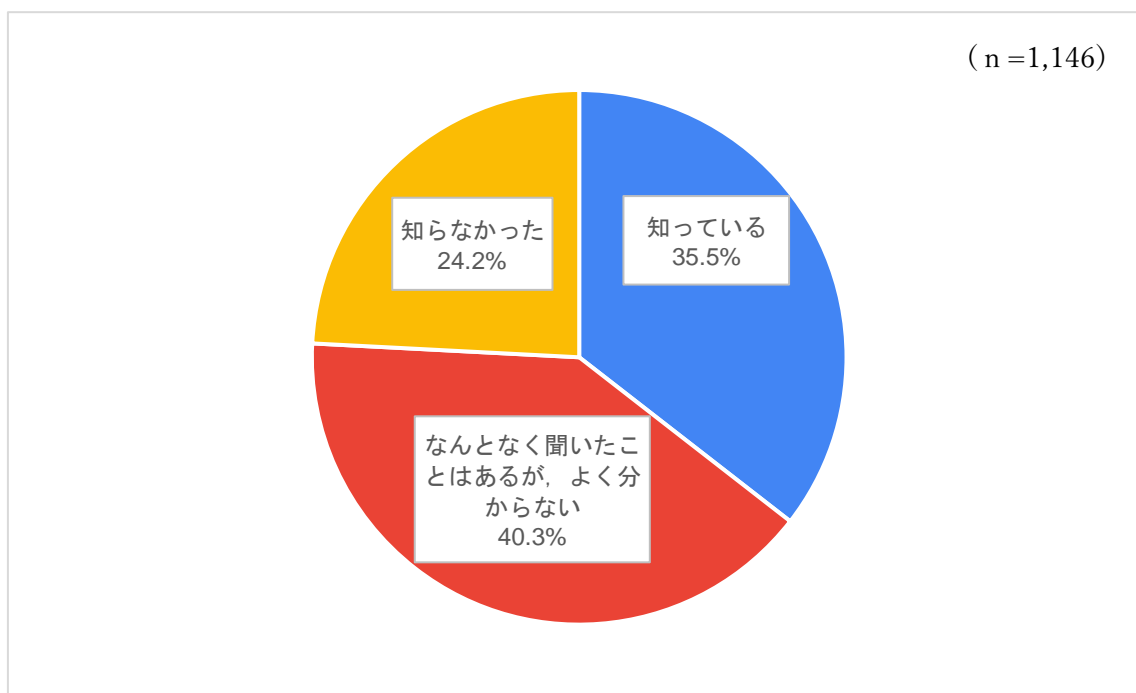
4. 学校部活動の地域移行について知っているか。

・「なんとなく聞いたことはあるが、よく分からない」、「知らなかった」を合わせると、小学生の保護者が71.6%、中学生の保護者で64.5%となっている。

○小学生保護者



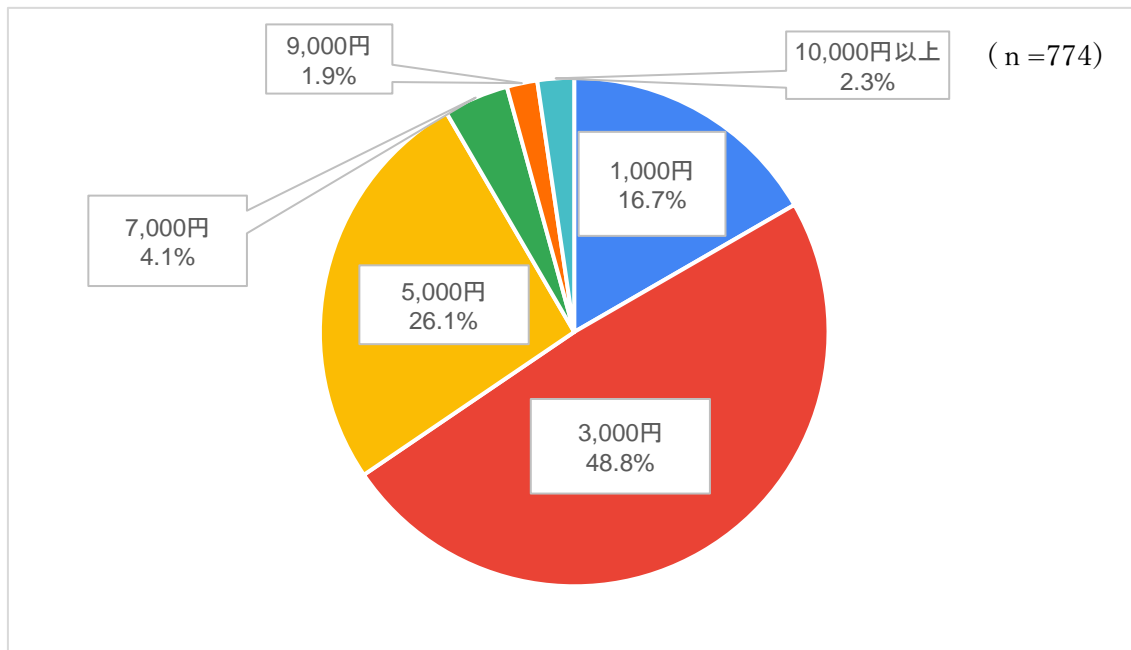
○中学生保護者



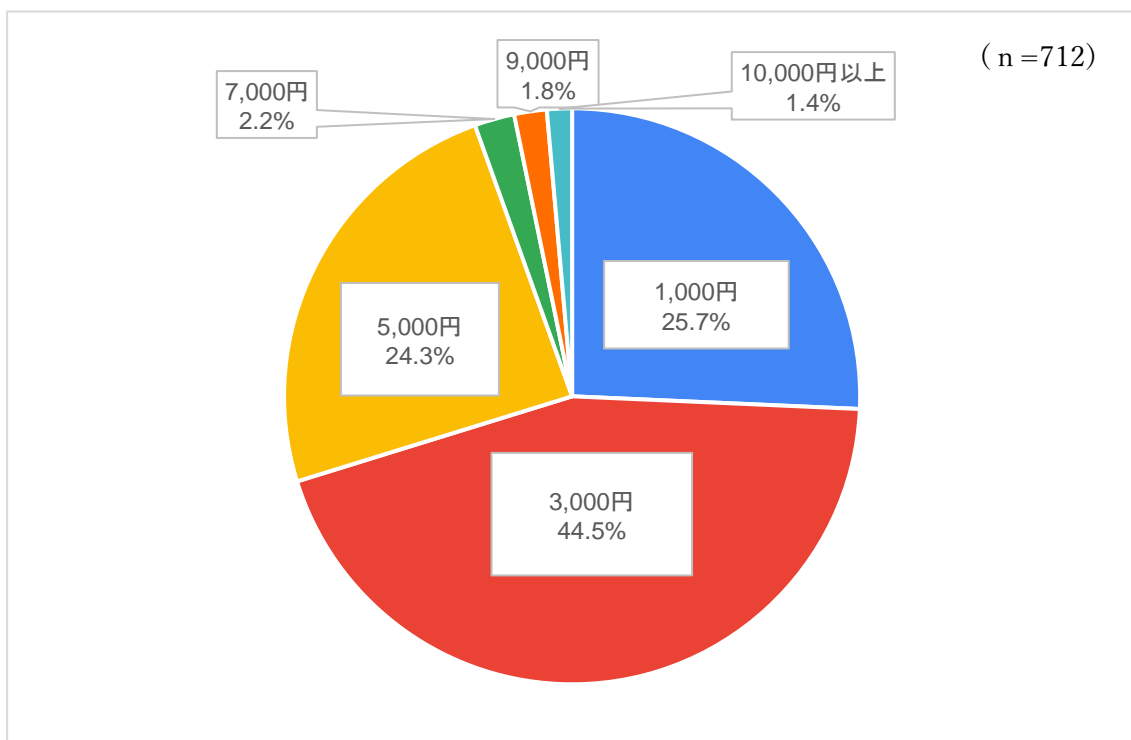
5. 地域のスポーツクラブや文化団体等が運営する教室・クラブに参加させる場合、参加費等（月額）は、いくらまで負担できるか。

・「3,000円」と回答した小学生の保護者が48.8%，中学生の保護者が44.5%と最も高くなっている。

○小学生保護者



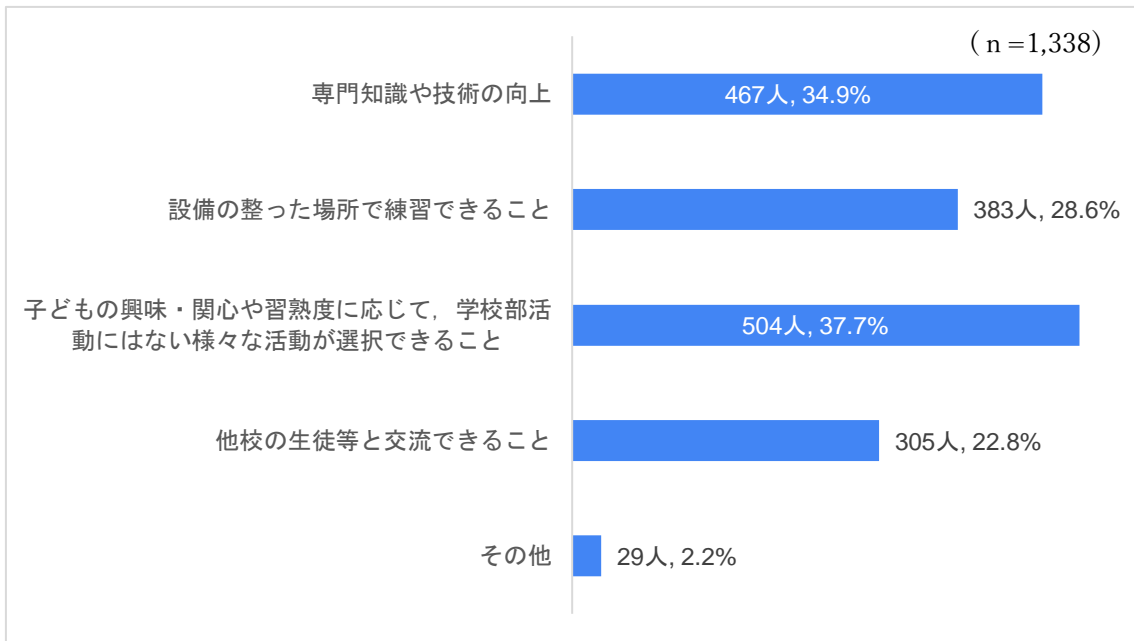
○中学生保護者



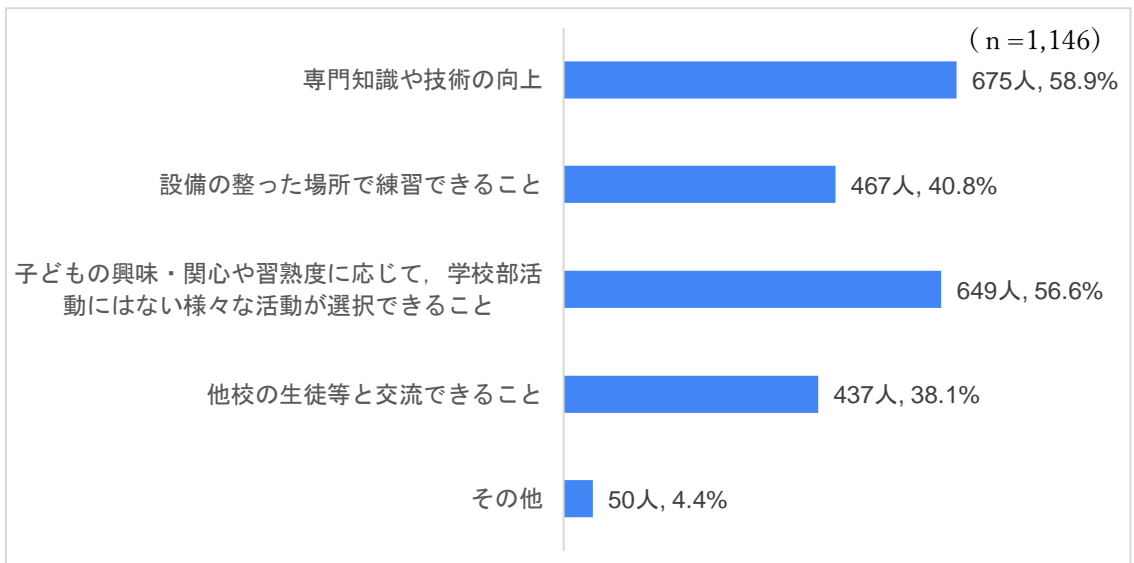
6. 休日の部活動の地域移行に期待することはなにか。

・小学生の保護者では、「子どもの興味・関心や習熟度に応じて、学校部活動にはない様々な活動」が37.7%と最も高く、次いで、「専門知識や技術の向上」が34.9%となっている。
・中学生の保護者では、「専門知識や技術の向上」が58.9%、次いで「子どもの興味・関心や習熟度に応じて、学校部活動にはない様々な活動が選択できること」が56.6%となっている。

○小学生保護者（複数回答可）



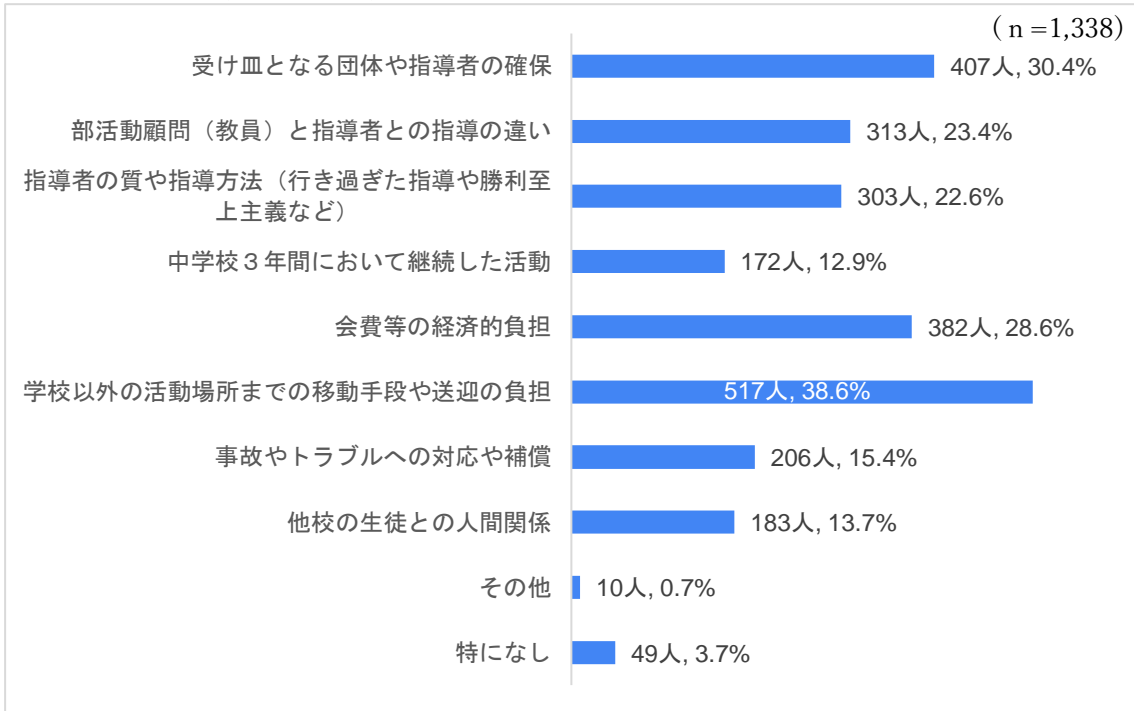
○中学生保護者（複数回答可）



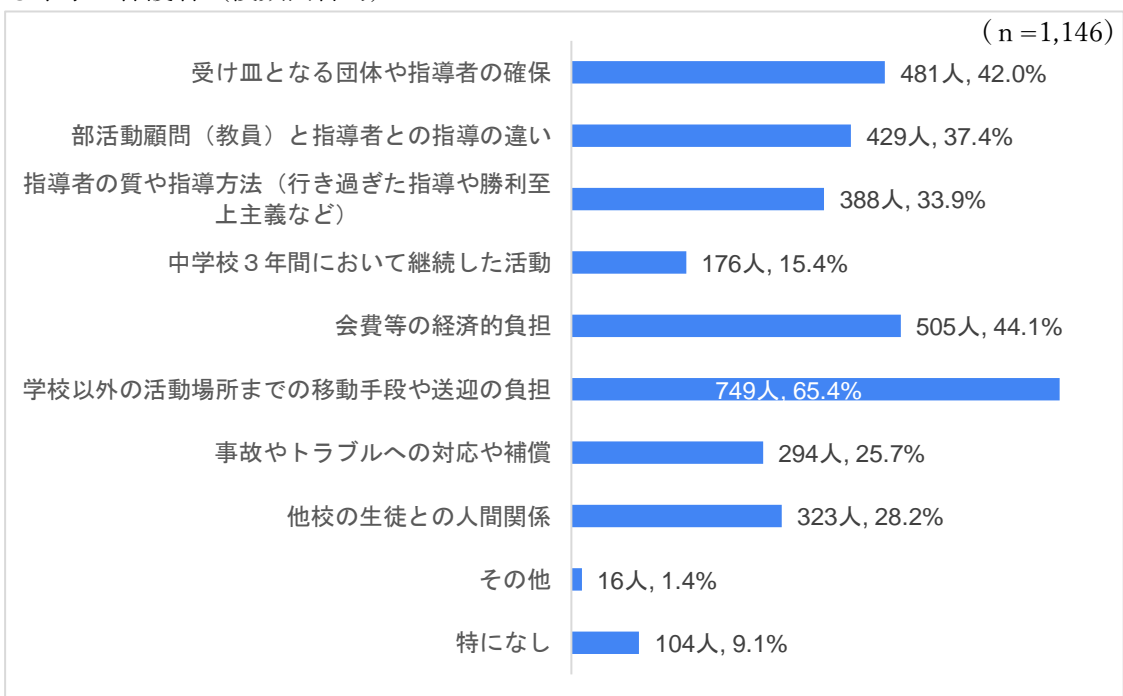
7. 休日の部活動の地域移行への心配や負担となることはあるか。

・小中学生の保護者ともに、「学校以外の活動場所までの移動手段や送迎の負担」、「会費等の経済的負担」、「受け皿となる団体や指導者の確保」が上位3項目となっている。

○小学生保護者（複数回答可）



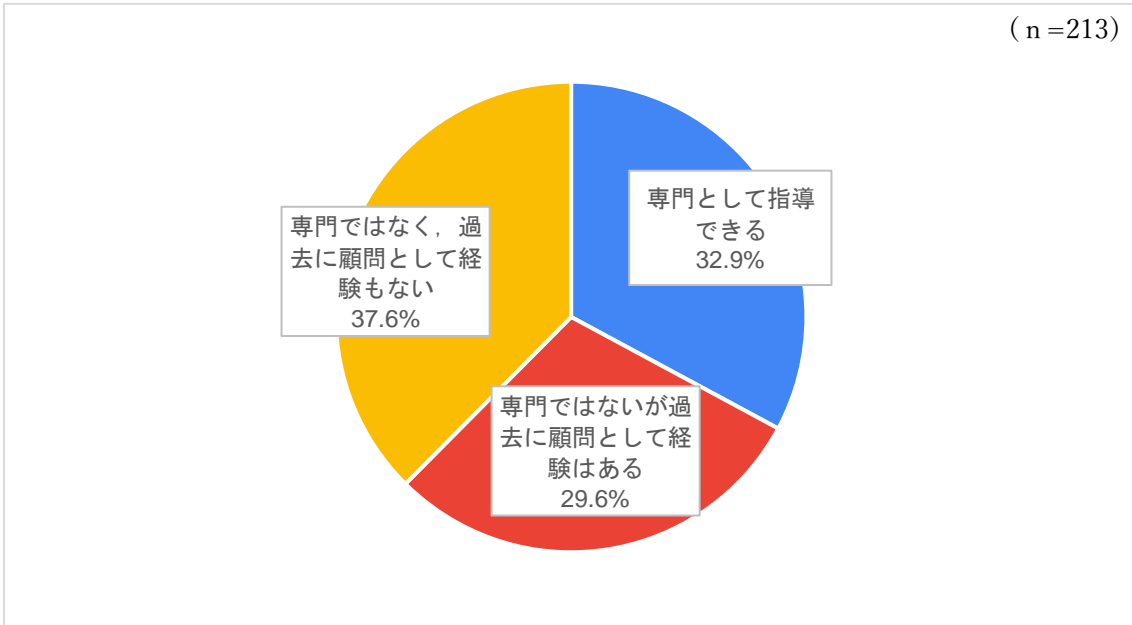
○中学生保護者（複数回答可）



【教職員】

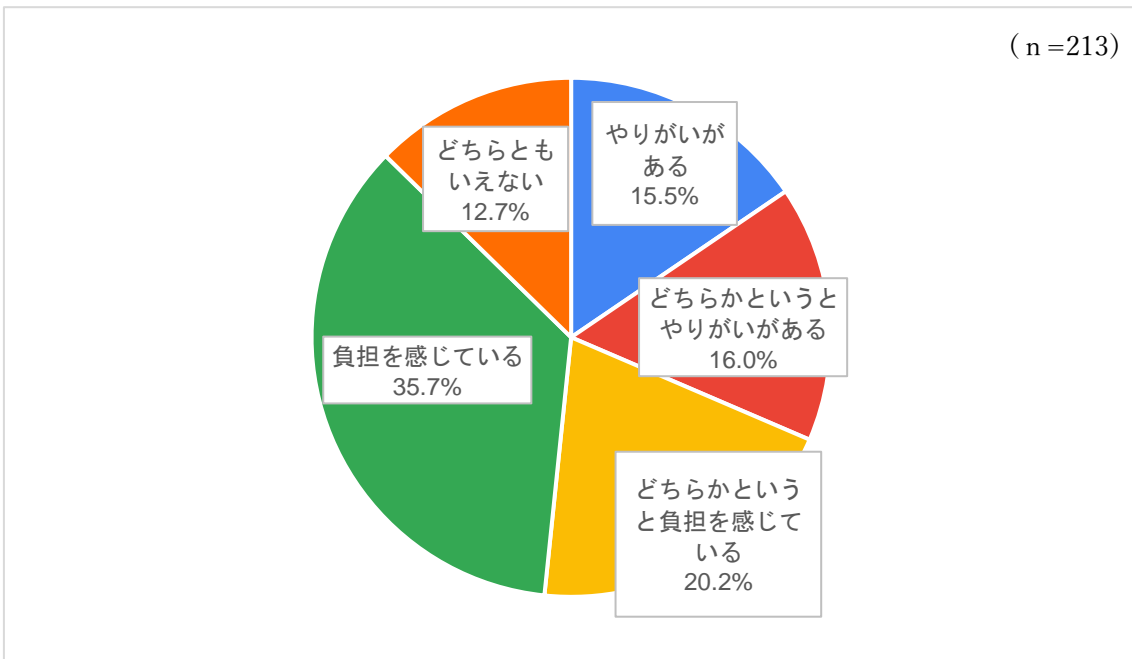
8. (中学校教職員) 現在担当している部活動は、専門として指導できるものか。

・中学校の部活動で顧問や副顧問を担っている教職員のうち、「専門ではなく、過去に顧問として経験もない」が37.6%と最も高くなっている。



9. (中学校教職員) 部活動の指導についてどのように感じているか。

・「負担を感じている」が35.7%、「どちらかという負担を感じている」20.2%となっており、合わせると半数を超えている。

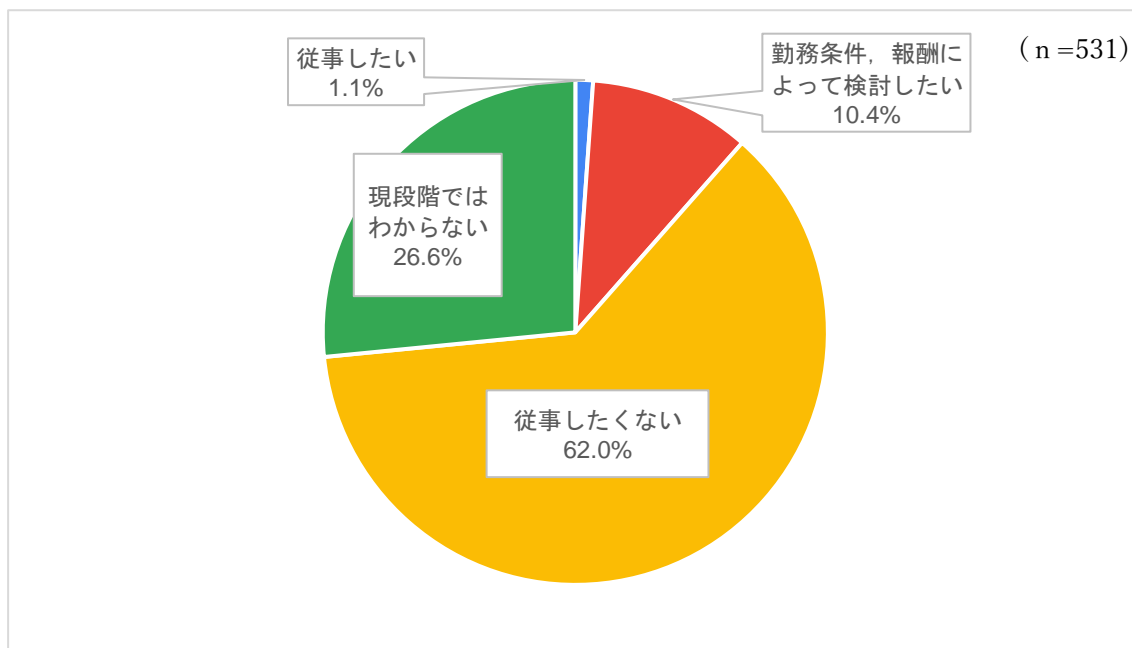


10. 地域移行した場合、兼職兼業の許可を得た上で指導に従事したいか。

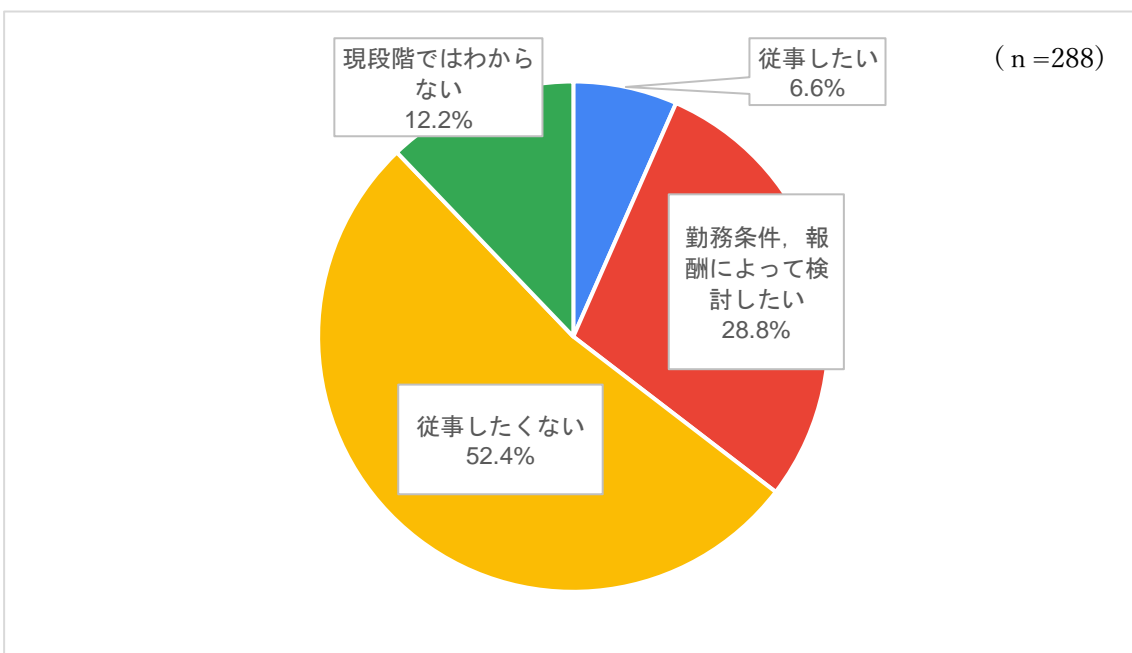
*「兼職兼業」とは、地域の教室・クラブ活動の指導を希望し教育委員会の許可を得た教職員が地域団体と雇用契約または業務委託契約を交わす、もしくは有償ボランティアとして、地域団体から報酬を受けて指導に従事するもの。

・小学校教職員では「従事したい」が1.1%、中学校教職員では「従事したい」が6.6%となっている。

○小学校教職員



○中学校教職員

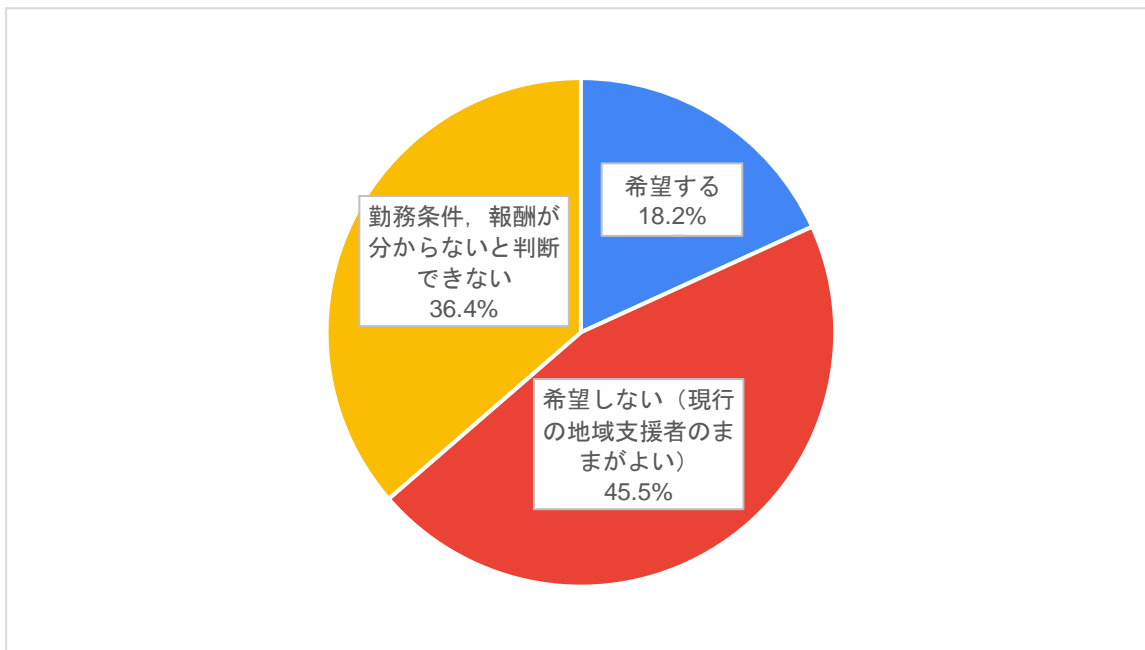


【部活動地域支援者】

1 1. 部活動指導員の制度を導入した場合、指導員となることを希望するか。

* 「部活動指導員」とは、会計年度任用職員として教育委員会が任用し、校長の監督を受け、部活動の運営を単独で行うことができるもので、主な職務として実技指導、学校外での活動・大会引率、用具・施設・部費の管理、保護者等への連絡、年間指導計画の作成、事故が発生した場合の現場対応等が想定される。

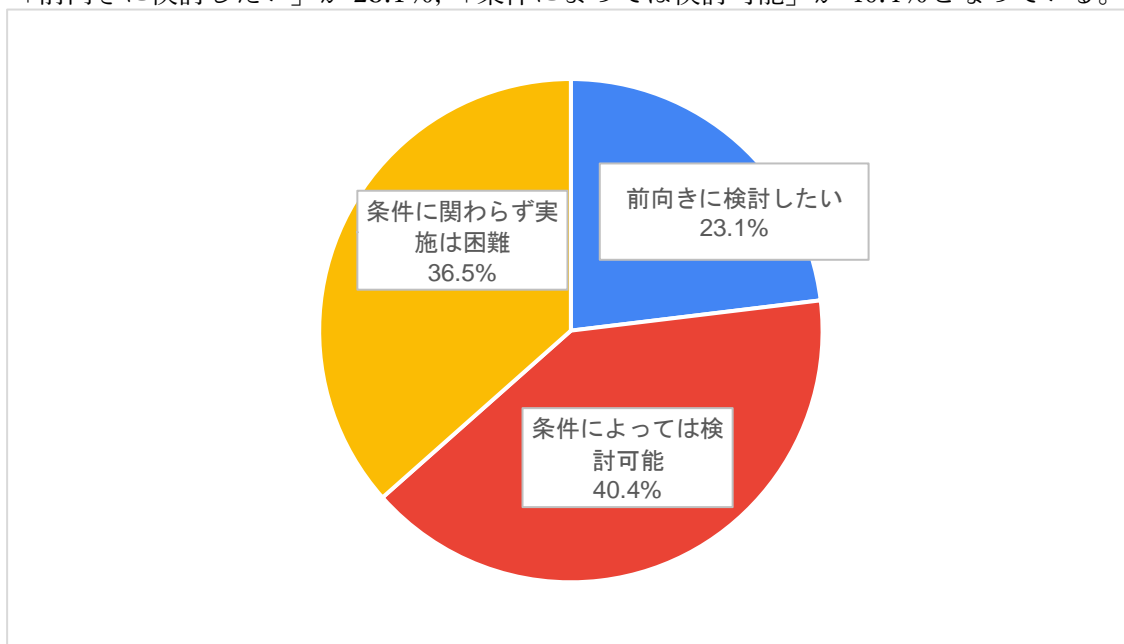
・「希望する」が 18.2%となっている。



【運動・スポーツ, 文化芸術関係団体】

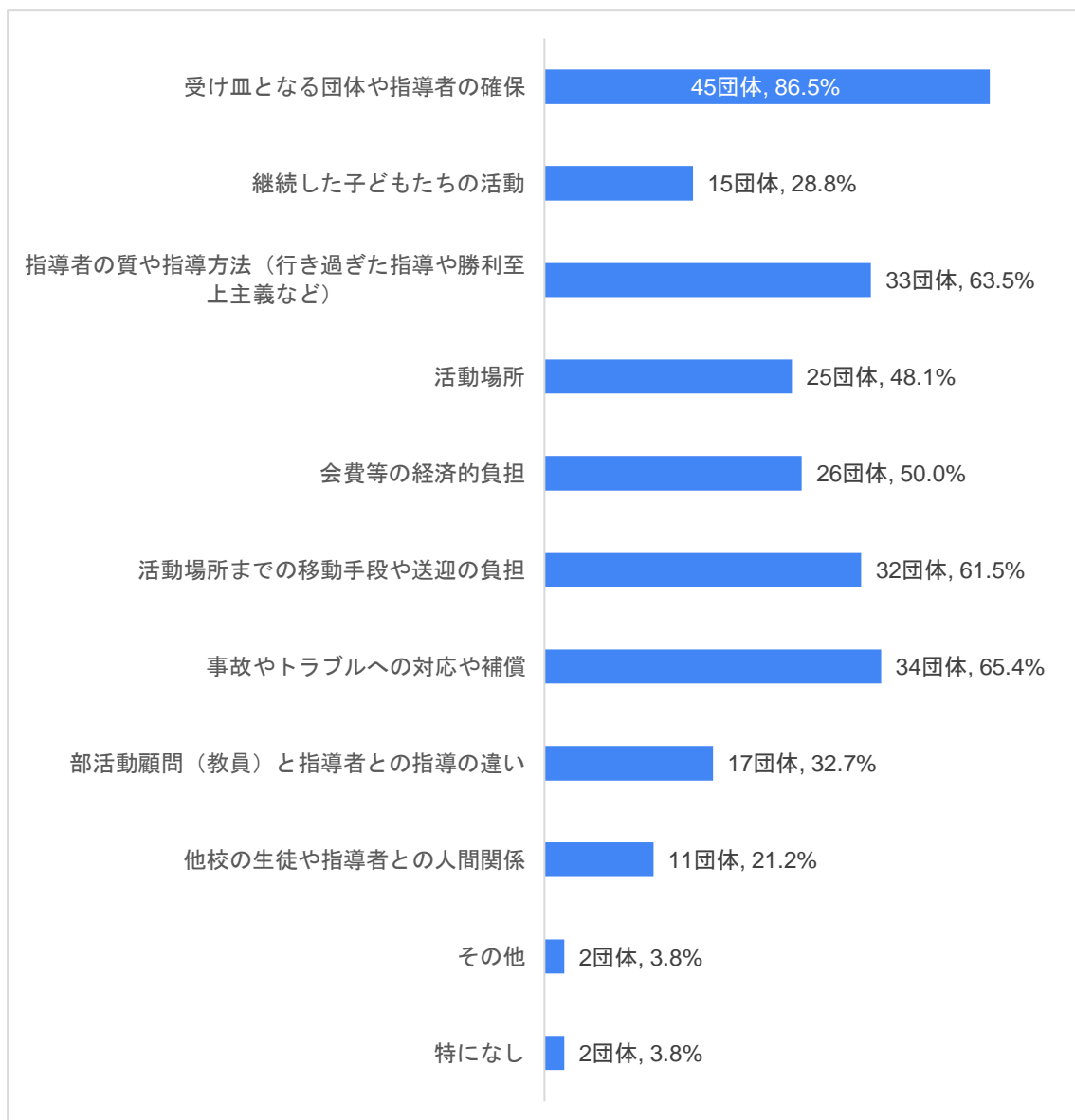
1 2. 地域移行の実施主体となることについてどのように考えているか。

・「前向きに検討したい」が 23.1%, 「条件によっては検討可能」が 40.4%となっている。



13. 休日の学校部活動の地域移行で課題となることはなにか。

・「受け皿となる団体や指導者の確保」が86.5%と最も高く、次いで「事故やトラブルへの対応や補償」, 「指導者の質や指導方法（行き過ぎた指導や勝利至上主義など）」, 「活動場所までの移動手段や送迎の負担」となっている。



アンケート結果の傾向

【小学生の意識】

- ・中学生になったらやってみたい活動はなにかという質問に対して、「学校の部活動」が約5割と最も高くなっている。またその種目については、バスケットボール、バドミントン、サッカー、野球、美術、吹奏楽、陸上、ダンスの順に高くなっている。(質問1)

【中学生の意識】

- ・現在の中学生の活動状況については、「学校部活動で行っている」が約6割、次いで「何もやっていない」が約2割、「学校部活動と学校部活動以外の教室・クラブ等両方で行っている。」が1割、「学校部活動以外の教室・クラブ等で行っている」が約1割となっている。(質問2)
- ・休日の学校部活動が地域クラブ活動に移行した場合、どんな活動にしたいかという質問に対して、中学生は、「専門的な技術指導が受けられる活動」が約5割となっており、次いで「大会やコンクールでよい成績が取られる活動」および「初めてでも気軽に参加でき、楽しむことを目的としたレクリエーション活動」が上位となっている。(質問3)
- ・休日の学校部活動が地域クラブ活動に移行した場合、心配なことについての質問に対しては、「特になし」が約4割、次いで「教室・クラブの指導者や他校の生徒などとの人間関係」となっている。(質問3)

【保護者の意識】

- ・小中学生の保護者ともに、地域移行について「なんとなく聞いたことはあるが、よく分からない」、「知らなかった」を合わせると約7割となっている。(質問4)
- ・地域のスポーツクラブや文化団体等が運営する教室・クラブに参加させる場合の参加費等(月額)の負担については、小中学生の保護者ともに、「3,000円」が約5割と最も高くなっている。(質問5)
- ・休日の学校部活動が地域クラブ活動に移行した場合、期待することはなにかという質問に対して、小学生の保護者では、「子どもの興味・関心や習熟度に応じて、学校部活動にはない様々な活動」が約4割、次いで「専門知識や技術の向上」となっており、中学生の保護者では「専門知識や技術の向上」が約6割、次いで「子どもの興味・関心や習熟度に応じて、学校部活動にはない様々な活動」となっている。(質問6)
- ・休日の学校部活動が地域クラブ活動に移行した場合、心配や負担についての質問に対しては、小中学生の保護者ともに、「学校以外の活動場所までの移動手段や送迎の負担」、「会費等の経済的負担」、「受け皿となる団体や指導者の確保」が上位3項目となっている。(質問7)

【教職員の意識】

- ・部活動の顧問を担っている教員のうち、「専門ではなく、過去に顧問としての経験もない」と回答したのは約4割となっている。(質問8)
- ・部活動の指導について、「やりがいがある」と「どちらかというやりがいがある」を合わせた割合よりも、「負担を感じている」と「どちらかという負担を感じている」を合わせた割合が上回っている。(質問9)
- ・地域移行をした場合、兼職兼業の許可を得た上で指導に従事したいと回答した教職員は小中学校教職員を合わせても1割に満たなかった。(質問10)

【部活動地域支援者の意識】

- ・教員の代わりに部活動の顧問として指導や大会引率等を行える部活動指導員を配置した場合、指導員になることを希望するかという質問に対して、「希望する」が約2割となっている。(質問11)

【団体の意識】

- ・地域移行の実施主体となることについて、「前向きに検討したい」が約2割、「条件によっては検討可能」が約4割となっている。(質問12)
- ・地域移行について課題になることについて、「受け皿となる団体や指導者の確保」が約9割、次いで「事故やトラブルへの対応や補償」、「指導者の質や指導方法(行き過ぎた指導や勝利至上主義など)」、「活動場所までの移動手段や送迎の負担」となっている。(質問13)